

出題分析		
試験時間 120 分	配点 200 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]	
<p><b>【概評】</b></p> <p>総合政策学部と同じく、今年も問題の構成は大問Ⅰ・Ⅱが各 15 問、大問Ⅲが 30 問の 3 題であった。空所補充問題と内容(不)一致問題で構成されている点も昨年と同様であった。英文の長さは今年も大問Ⅰ・Ⅱが各 2 ページ、大問Ⅲが 3 ページにわたる長文であり、全体の読解量は昨年と同程度と言える。長文の内容としては、大問Ⅲがやや抽象度が高いので読みにくい部分があるものの、全体としては標準的な難易度だった。空所補充問題では昨年と比べると難しい語彙の選択肢が多かったが、前後の文脈が理解できていれば解答できるものが大部分であった。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 (培養肉)	3 択の空所補充が 10 問、4 択の内容(不)一致が 5 問という構成。本文は培養肉の利点と課題について論じた文章であった。比較的読みやすい文章で、空所補充問題にも内容(不)一致問題にも判断に迷う設問はほとんどなかったといえる。	やや易
II	長文読解問題 (気候変動危機の伝え方)	I と同様、3 択の空所補充が 10 問、4 択の内容(不)一致が 5 問という構成。本文は気候変動危機を人々に意識させる伝え方に関して論じた文章であった。文章は論旨が明快で、設問に関しても、一部の空所補充問題でややわかりにくいものがあったものの、内容一致問題に関しては紛らわしい選択肢も少なく、総じて標準的であった。	標準
III	長文読解問題 (生態学とテクノロジー)	3 択の空所補充が 20 問、4 択の内容(不)一致が 10 問という構成。昨年同様、大問Ⅰ・Ⅱと比べて英文は長い。生態学とテクノロジーについて論じた文章であった。空所補充問題は概ね標準的だった。文章全体の内容はやや抽象的であり、内容(不)一致問題に関しては判断に迷うものが含まれるものの、全体の難易度としては例年並みだといえる。	標準

#### 合格のための学習法

今年もⅠ・Ⅱは英文の分量が抑えられているが、Ⅲではかなり長い文章が出題されている。長めの文章を読み通す訓練を十分に積んでおく必要があるだろう。内容的には、科学論や社会論など本格的な評論が例年出題されている。日頃から専門的な内容の文章に接する機会をもち、語彙力や背景知識の増強に努めたい。また、内容(不)一致問題では参照すべきパラグラフが示されているものが多いので、英文を読む際には漫然と読み通すのではなく、パラグラフごとの趣旨を理解し、パラグラフ間の関係を意識しながら読むことを心がけたい。